

先生のお薦め一冊

『夢をかなえる口ぐせの心理学』佐藤 富雄 著 (かんき出版)

保健体育科 和田迫 俊祐 先生

「あと〇〇日で夏休みが終わっちゃう・・・」「〇〇日経ったら、また試験だ・・・」「〇〇高校に勝つなんて無理でしょう・・・」「あ～面倒くさい・・・」「こんなの全部覚えられないよ・・・」このような言葉を、最近口にした覚えはありませんか？これらのマイナス思考的な発言が、成功を逃してしまふ、もしくは逃してきた大きな要因なのかもしれません。

あなたが日頃発している言葉や口ぐせの中に、プラス思考のものとマイナス思考のものがどれくらい含まれているか調べてみてください。『夢をかなえる口ぐせの心理学』には、その割合や一つひとつの言葉・口ぐせが夢や目標の実現に大きく影響している理由がわかりやすく解説してあります。そして、今後どのような言葉を使うように心がけるべきなのかというアドバイスが詰め込まれた一冊です。

字数・ページ数ともにそれほど多くなく、本を読むことが苦手な人にもお薦めです。なんとなく上手くいかない現状を変えたい人、夢や目標を実現させたいけれど何から始めたらいいのか悩んでいる人、プラス思考になりたい人は是非読んでみてください。

*和田迫先生のお薦めの本は、残念なことにまだ敬愛館には入っていません。お薦め頂いた本が届くまで、敬愛館にあるプラス思考になれる本を読んでみてはいかがでしょうか！

『人生が楽しくなるちょっとした考え方』
宝彩 有菜 (大和書房)
～誰もが握りしめている鉄アレイの手放し方が書かれている本～だそうです。心が少し軽くなって、前に進めるかもしれませんね。



『できる』と思えば『必ずできる!』心理学
和田 秀樹 (新誠社)
「できる」と思うたびに成長する!力強い言葉です。自分の力を信じて一歩踏み出すことの大切さが、ぎゅっと詰まった一冊です。プラス思考は大切です!



新着図書

- ・『吾輩ハ猫ニナル』横山 悠太著 (講談社)
— 日本語と中国語を混交した斬新な文体で、日本人の父を持つ中国の青年の成長を描いた作品。
- ・『水平線のぼくら』仁木 英之 著 (角川春樹事務所)
— 舞台は奄美大島。雪の降らない奄美大島でスキー競技に打ち込む高校生の話。
- ・『はるか遠く、彼方の君へ』安澄 加奈 著 (ポプラ社)
— 京都に修学旅行中の高校生・夕凧は、突然気を失い、源平合戦の世にタイムスリップしてしまう!
- ・『進路に悩んだら読む 16歳からの「孫子」』饗庭 悟 著 (彩流社)
— 古代中国の兵法書『孫子』。その『孫子』が、現在の私たちの人生の選択に役に立つとは・・・。
- ・『天才と異才の日本科学史』後藤 秀樹 著 (ミネルヴァ書房)
— 科学に魅せられた人々の情熱と友情。多彩なエピソードで綴る、人物から読む近代日本科学史。



- ・『命のピザを喰いだ男』山田 純大 著 (NHK出版)
— ナチスから逃れ、日本へ辿り着いた6000人ものユダヤ難民。神戸でユダヤ難民の窓口になった日本人が“小辻節三”であった。
- ・『熱く生きる』天野 篤 著 (セブン&アイ出版)
— 日本を代表する心臓外科医・天野 篤。自分に厳しく、熱く生きることの大切さを教えてくれる一冊。

7月の統計

4月の貸出総数 547冊

5月の貸出総数 667冊

6月の貸出総数 226冊

7月の貸出総数 416冊



学年	1年								2年								3年							
	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
貸出数	4	10	8	7	6	5	28	7	20	28	7	9	24	12	5	10	9	14	5	27	73	50	33	15
合計	75冊								115冊								226冊							

* 3年生の貸出が増えてきました。マンガ版源氏物語『あさきゆめみし』や、小論文対策用の資料の貸出が目立ちます。ゆっくり読書する時間は持てないかもしれませんが、目標達成のために努力してください！どんな本を読めばいいのかわ迷っている人は、教科の先生方にアドバイスを頂いてみてはいかがでしょうか。的確なご指導が頂けると思います。1年生の皆さんは、今のうちに文学や自分の好きな分野の読書を楽しんでください。また、2年生の皆さんは、将来を見据えた本を少しずつ読み始めてはいかがでしょうか。

名作劇場

立原道造の詩を読む

現代の日本を代表する建築家といえば、安藤忠雄・丹下健三・藤森照信・・・の名が浮かびます。建築を学びたいという人たちは、もっとたくさんの建築家をご存じのことでしょう。

夭折の詩人・立原道造は、東京帝国大学工学部建築学科卒業後、建築事務所に就職します。建築家として、また詩人として活躍を約束されていました。しかし、健康を害し、昭和14年に24歳の若さで亡くなります。亡くなる少し前に、第1回中原中也賞を受賞したばかりでした。もし、健康であれば、どのような建物を作り、どれほどの詩作をしたのかと残念に思えます。建築家としての立原道造をイメージすることは難しいのですが、軽井沢を愛した詩人の作る建物、爽やかで心地よいものだったのでは・・・と想像してしまいます。

詩は苦手という人も多いことですが、ドキッとする言葉に出会えることもあるかもしれません。自分の気持ちを代弁してくれる詩が見つかるかもしれません。たまには詩集も読んでみてはいかがでしょうか。

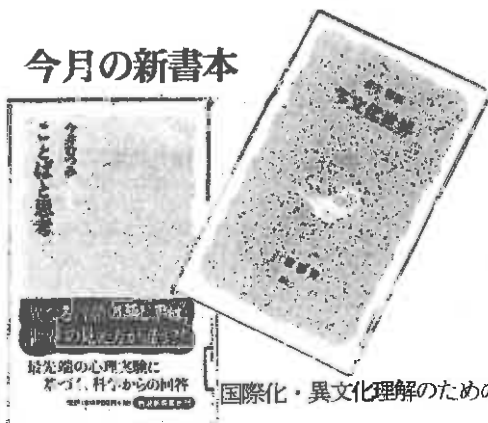
も 蝶 子 甘 黄 眼 八
つ よ れ い い に 月
と り ら に ろ 池 の
優 も の ほ な み 金
し 花 ひ る と
い 小 が と 淡 爽 録
愛 鳥 咲 光 い や の
の ら さ と か 微
心 よ に に 花 な 風
が り ほ み ャ 麦 の
挨 も ふ ら の 葉 を
揚 と て や 帽 か
す さ う 子 て
る だ は

麦
藁
帽
子

立
原
道
造



今月の新書本



編集後記

夏休みも瞬間に過ぎていきました。台風接近のため閉館にした日もありました。ごめんなさいm(_ _)m。期末考査、体育祭・・・そして秋休み。こんな時こそ“平常心”で、そして“プラス思考”で頑張りましょう！お忙しい中、原稿をお書きくださった和田迫先生、本当にありがとうございました。体育祭も頑張ります。